

今年度の検討課題（テーマ）			
<p>・大和市児童相談支援事業所連絡会より、放課後児童クラブにおいて支援を必要とするお子さんが増えてきていることが挙げられ、現状について情報交換をするなかで、以下の課題点が見えてきた。</p> <p>①支援の困難なケースへの対応など子どもの困り感、②就労している保護者への支援など保護者の困り感、③人材、人手不足、保育の質の向上など現場の支援員の困り感、④関係機関（学校・児童クラブ・放デイ・相談支援・家庭など）との連携・協力体制の構築など管理部署の困り感という4つを地域の課題として挙げ、「保護者が就労している家庭の“支援が必要な子ども”の過ごす場」をテーマに検討することとなった。</p>			
メンバー			
ぴこっと 部会長	児童発達支援センター 第1松風園	はあとふるキッズ大和南	三ツ境支援学校
瀬谷支援学校	横浜ひなたやま支援学校	大和市教育委員会指導室	青少年相談室
こども・青少年課	すくすく子育て課	大和市ほいく課	大和市障害者 自立支援センター
サポートセンター花音	相談支援センター松風園		
開催日及び検討経過			
令和5年4月12日	第1回児童部会ワーキンググループ(オンライン) 部会の開催に向けて、部会メンバーへの出席依頼、進行表作成、役割分担などの準備		
令和5年5月24日	第2回児童部会ワーキンググループ(オンライン) アンケートの集計、現状や課題の整理、部会のすすめ方についての確認		
令和5年6月21日	第1回 児童部会（ハイブリット形式）		
中間報告			
<p>・「保護者が就労している家庭の“支援が必要な子ども”の過ごす場を考える」をテーマとし、部会員に新たに市こども・青少年課、ほいく課も参加することになった。部会長はぴこっとの山田氏が承認されている。</p> <p>・保護者が就労している家庭の支援の必要な子どもたちの放課後の過ごし方としては、学校の敷地内や学校近くにある放課後児童クラブの他に、学校からファミリーサポートセンターを利用して日中一時支援事業を利用したり、送迎付きの放課後等デイサービスを利用したり、これらの資源を併用して過ごしている児童が多くいることがわかった。</p> <p>・放課後児童クラブの課題に対しては現在もいろいろな取り組み（放課後児童クラブの巡回指導、特別支援学校の巡回相談、保育所等訪問支援事業などの活用）がなされていることも分かったが、どのように活用したらよいのかなど相談の流れが、保護者にも関係者にも分かりやすくなるような可視化されたものがあるとよいのではないかという意見が挙げられている。</p>			
令和5年度の今後の予定			
<p>令和4年9月14日(水)、令和5年1月18日(水)いずれもハイブリット形式で開催</p> <p>○保護者にも関係者にも分かりやすいような相談の流れを可視化されたものについて検討</p> <p>○“支援が必要な子ども”の過ごす場について、対話をする場をつくっていく</p>			
今年度の検討の成果（見込）			
保護者が就労している“支援の必要な子ども”の過ごす場について、一緒に考える場ができる。			

自立支援協議会<地域生活支援部会> 活動報告

今年度の検討課題（テーマ）			
<ul style="list-style-type: none"> ・障がいのある人及びそのご家族の高齢化に伴う地域生活上の課題を探り、障がい分野、高齢分野含め、地域の中で風通しの良い、連携の取れたスムーズな支援体制の構築を目指す。 ・障がいのある子を持つご家族向けに、成年後見制度の理解を深める取り組みを行なう。 ・障がいのある子を持つご家族向けに、ご家族の高齢化に伴う必要な準備をについて、学びを深める取り組みをおこなう。 			
メンバー（敬称略）			
大和市手をつなぐ育成会	大和市肢体不自由児者父母の会	大和さくら会	南林間地域包括支援センター
福田地区地域包括支援センター	カーサ柳橋	成年後見センターかけはし	大和市社会福祉協議会生活支援課
大和市障がい福祉課	相談支援センター松風園	大和市障害者自立支援センター	サポートセンター花音
開催日及び検討経過			
4月18日（火）	<ul style="list-style-type: none"> ・年間スケジュールの確認（今年度の取り組みについて） ・成年後見制度の勉強会（⇒対象団体の確認）と家族向け勉強会についての提案 ・地域包括支援センターとの連携（⇒連携の確認と共有） ・あいサポート運動の普及啓発（⇒協力依頼があれば普及啓発活動を行う） 		
5月16日（火）	<ul style="list-style-type: none"> ・成年後見制度の勉強会（⇒対象団体、時期、開催方法、チラシやアンケート内容確認） ・あんしんノートについて（⇒普及啓発についての確認） ・地域包括支援センターとの連携（⇒コロナ5類変更後の状況について情報交換）・家族向け勉強会（⇒スケジュール確認） 		
6月20日（火）	<ul style="list-style-type: none"> ・成年後見制度の勉強会（⇒日程調整）、家族向け勉強会（⇒内容について意見交換） ・地域包括支援センターとの連携（⇒共有事項、取り組みの検討） ・あんしんノートについて（⇒簡易版の作成について内容検討） 		
中間報告			
<p>○地域包括支援センターとの連携：高齢福祉分野・障がい福祉分野それぞれが学びを深め合える機会への参加を確認。</p> <p>○成年後見制度の勉強会：昨年度11月4日（金）に、対象者を「大和市肢体不自由児者父母の会」に限定して家族向けの勉強会を実施した。今年度は、対象団体を「大和さくら会」とし、10月頃に昨年度と同様の内容で勉強会を行なう予定。開催方法は対面を予定しており、準備を進めている。</p> <p>○家族の高齢化に伴う家族向け勉強会：高齢化に伴う「親としての準備を学ぶ勉強会」を開催していく予定。</p>			
2023年度の今後の予定			
<p>○高齢分野との連携：障がいのある人及びそのご家族の高齢化に伴う地域の中でのサポート体制の構築及び増進のため、大和市内の地域包括支援センターとのつながり、顔の見える関係づくりを進めていく。</p> <p>○障がいのある子を持つご家族向け勉強会：成年後見制度についての勉強会及び高齢化に伴う親としての準備について学びを深める勉強会を実施していく。</p>			
今年度の検討の成果（見込）			
<ul style="list-style-type: none"> ・高齢分野、障がい分野が互いの理解をより深めながら、地域の中で顔の見える支援体制の維持、強化を図ることにより、連携の取れたスムーズな支援体制の構築と維持を図ることができる。 ・障がいを持つ当事者のご家族が、勉強会や情報提供を通じて、成年後見制度をより身近なテーマとして感じながら、学びを深めることができる。また、高齢化に伴う、障害のある子を持つ親としての準備について、学びを深めることができる。 			

自立支援協議会<精神保健福祉部会> 活動報告

今年度の検討課題（テーマ）

大和市中における精神障がいにも対応した地域包括ケアシステムの整備を目的とし、精神障がい者が地域の一員として安心して自分らしい暮らしをすることができるよう、医療・福祉・住まい・社会参加（就労）、普及啓発、保健予防が包括的に確保されたシステム作りの構築をすすめていく

メンバー（敬称略）

地域活動支援センターポピー	やまとまと	大和さくら会
大和病院・総合支援課	森の家	あゆみの家
ホープ大和	ワークーズ想	大和市社会福祉協議会
大和市立病院・地域連携科	厚木保健福祉事務所大和センター	相談支援センター松風
サポートセンター花音	大和市障がい福祉課	大和市障害者自立支援センター

開催日及び検討経過

4月27日（木）	<p>全体会：今年度の活動内容についての確認</p> <p>○必要な情報を整理</p> <p>○普及啓発活動：障がい者週間事業のイベントを活用した研修企画、勉強会</p>
5月18日（木）	<p>○住まい、②社会参加2つのワーキンググループに分かれ活動</p> <p>○普及啓発活動：障がい者週間事業のイベントを活用した研修企画、勉強会</p>
6月29日（木）	<p>○住まい、②社会参加2つのワーキンググループに分かれ活動</p> <p>○普及啓発活動：障がい者週間事業のイベントを活用した研修企画、勉強会</p>

中間報告

昨年に引き続き、対面で部会を開催。昨年度の活動で大和市内の地域アセスメントを行い、情報の整理・情報ツールの作成を進めた。整理を行う中で活動の継続が必要だと思われた①住まい、②社会参加について、今年度2つのワーキングに分かれ活動を継続。①住まいにおいては、まちづくり協会との情報交換会を7月27日に予定。②社会参加では昨年度中止となった職員向け研修の調整を進めている。また、全体会では障がい者週間事業に合わせたイベント内容の検討を進めている。

2023年度の今後の予定

- 上期はワーキンググループで活動
- ①住 ま い：まちづくり協会との情報交換会、勉強会についての計画・調整
- ②社会参加：職員向け研修の計画・調整、ピアサポーターについての情報収集、当事者活動のサポート
- 障がい者週間事業に合わせたイベントの具体的な内容の検討

今年度の検討の成果（見込）

- ①住 ま い：精神障がいのある方が住み慣れた地域で住まいを探せるよう、まちづくり協会との情報交換会・大家を含めた勉強会を開催し精神障がいに対する理解促進、当事者・賃貸業者（大家）との相互理解を深める。
- ②社会参加：当事者の声を受け、個々の背景理解を含めた支援に繋がるような研修の機会、当事者活動の情報を集め当事者会のサポート体制の基盤作り。
- 障がい者週間事業に合わせイベントを企画
精神疾患や精神障がいのある人の暮らしに関する普及啓発活動を行い、理解促進を図る。